

## 比較住宅政策研究会 議事録

日時 : 2004年7月27日(火)午後7時00分~9時00分

テーマ : 女性・市民が運営する市民活動に融資する非営利金融組織

報告者 : 向田 映子氏(女性・市民信用組合設立準備会 代表)

会場 : 東京都立大学同窓会 八雲クラブ

出席者 : 海老塚 良吉、亀山 恒夫、大家 亮子、鈴木 宣人、大熊 喜昌、水津 まき子、萬羽 敏郎、北村 ともや、西田 敬(計10人)

(記録 海老塚)

### 【報告】

・母体は生活クラブ運動グループで、生協は神奈川県には6万人の組合員がいて生産者から共同購入をしている。組合員のほとんどは女性。地域で自らが雇用主になって働こうと、アメリカ西海岸の運動をヒントにしてワーカーズ・コレクティブを組織して市民事業を行ってきた。県内には210組織があり6000人が働いている。半数は福祉関係で、他は運送、リサイクル、レストラン、仕出しなど。事業をする資金のために女性・市民信用組合設立準備会ができる。まずは、資金が不足な場合は私募債で一口、5万円、10万円で資金を調達してきた。既存の金融機関は、現在でも担保がなく継続した勤務経験がない主婦達がおこなっている事業に融資はしてくれない。

・1990年にバブルが崩壊し、金融機関が破綻した。女性たちの市民事業に銀行が融資してくれない現状と、郵便貯金を含めて自分たちの預金がどのようなところに融資されて役立っているのか無関心ではならないと考え、96年3月に勉強会を立ち上げた。信用組合を設立しようとしたが日本ではこの30年間、設立されたことがなく認可には時間がかかることがわかった。しかし、法令では設立できることになっていることから、賛同者と出資金を集めることにした。出資者を募り2000~3000万円が集まったところで、無尽、頼母子講のように出資者相互で融資をすることとし、貸金業者として代表個人の名義で登録して融資を始めた。

・融資は審査委員会(6人の委員で構成、全員女性、NPOやワーカーズ・コレクティブでの実務経験者)で決定し、県内の事業のみに融資しているが、出資者の中には県外の人もある。返済金利は平均で2.3%、担保は必要がないが連帯保証人(団体の場合は理事等)をたててもらう。相互に資金を融通するのが原則なので、融資先もまずは出資者になってもらう。地域貢献と同時に、採算性、持続性をチェック、これまで2件を不適格としたが、そのうちのひとつ、シルバーレストランは家賃などの固定費の額が大きいので経営的に無理とアドバイスしたが、事業を始め、8ヵ月後にはつぶれた。

・通常の金融機関はNPOに融資するのは手間もかかり利幅も少なく嫌がる。アメリカの地域再投資法(CRA)は、マイノリティに配慮した法律で日本とは社会環境が異なっている。竹中経済相がリレーションシップ・バンク構想を打ち出し、信金等でもコミュニティ・ビジネス研究会を始めているが、NPOに自ら融資を積極的に行うという動きはまだ見えない。

・自治体がNPOに業務委託をするケースが増えているが、完了払いが原則でつなぎ融資が必要となり、北海道では北海道NPOバンクを設立してこのような場合の融資を行っている。このような動きが各地で始まっているが(日本経済新聞2004年2月23日付参照)相互の情報交流は今年の初めまでほとんどなかった。

・活動の情報公開に努め、ニュースを発行して融資先の事業を紹介している。ただし、個人名を出さない等のプライバシーに配慮している。貸出先が増えて出資金の原資が不足したときは、他団体から資金調達している。貸倒引当金は、貸金業は最大3.3%まで認められているが、一定額を積んでいる。

#### 【質疑】

- ・昨年出資金増加額は1700万円あった。出資金は元本保証がなく、これまで配当金も出していない。出資金は毎年3月に下ろせることになっているが、不測の事態のときは相談に乗っている。
- ・年間経費が450万円(半分強が人件費)かかり、貸付利息以外に委託調査費や本の販売等で収入を補っている。事務所は4畳半程度のところを借り、事務局員は3人が交替で勤務し、いつも1人か2人は常駐している。
- ・出資者の96%は女性で、口コミやマスコミ報道で広がっている。NHKのクローズアップ現代で放送された後は大きな反響があった。男性の出資者が少ないのは地域活動とのつながりが薄いためではないか。
- ・返済期間は3~5年が多い。利率は個人の教育ローンは2.75%、団体の場合はリスクと収益性から判断して審査委員会で決め、たとえばリサイクル事業など収益性が高い事業は2.5%とやや高くしている。
- ・川崎市の野宿者生活支援施設は42名が入居可能。最近の法改正で個室とするように通達があり、これまで2人部屋だったのを屋内に壁を作って分割。ホームレスの平均年齢は57歳、この3年以内にホームレスになった人が最も多い。
- ・毎月の元本返済金は約400万円、振り込み手数料を安くするために4つの銀行口座を開設しているが、事務局の手間はかかる。
- ・出資者の年齢層を調べたことは特にはないが40~50歳代でないか。
- ・年一回の総会で選定された運営委員10名が毎月集まって、総会方針に沿って執行している。等

#### 講師レジメ

#### 女性・市民バンクの活動

女性・市民信用組合設立準備会 代表  
向田映子

#### 1、設立の経緯

- 1) 非営利・協同の活動 - 生活クラブ運動グループ
- 2) 既存金融機関への疑問
- 3) 対案は何か

#### 2、信用組合設立準備活動

#### 3、現代版「無尽」 - 女性・市民バンク - の仕組み、制度

#### 4、実績